

NGNショールーム「NOTE」が語る 未来のR&D

次世代ネットワーク（NGN）のサービス開始とともに、新たなNGNショールーム「NOTE」がスタートしました。NGNは、NTT研究所のさまざまな技術で創られ、支えられていますが、これからは

NGNがR&Dの可能性を拡げていきます。その未来を拓くR&Dのほんの一部を紹介します。

NGNフォーカスコーナーが 始まりました

2008年3月末日、NTTが進めてきた次世代ネットワーク（NGN）の本格的な商用サービスが始まりました。これを機に、NGNに対する、NTTのR&Dの取り組みやグループ企業の活動を広く内外の方に知っていただくこと、本誌5月号より、NGNフォーカスコーナーをスタートします。第一弾は、オープンしたばかりのNGNショールームに展示されているR&Dを紹介します。

進化した「NOTE」

NTTグループでは、2006年12月から約1年間にわたり、お客さまにNGNを利用したサービスや端末機器等を分かりやすく体感いただけるショールーム「NOTE（NGN Open Trial Exhibition）」を開設してまいりましたが、NGNの本格的な商用サービス開始に伴い、より身近にNGNを感じ、より具体的にNGNが開く豊かなブロードバンド・ユビキタス社会をお客さまにイメージしていただける、新たな「NOTE（NTT Open Telecom Experience）」を2008年4月にオープンしました。新たな「NOTE」では、オフィスや家庭などの利用シーンに応じたサービスや端末機器等を体感できる「ブ

ロードバンド・ユビキタス タウン」があり、本誌で紹介する2つのR&Dは、未来を感じる「Future @ room」に展示しています。

リモコンセントリクス

1番目は、個人のプロフィールを利用することにより、1人ひとりに快適な生活空間を実現する「リモコンセントリクス」です。

PCや携帯電話の扱いが苦手な方でも簡単に利用できる高い操作性を持った手のひらサイズの小型機器（図1）で、家庭のTV・エアコン・照明など、さまざまな機器をこれ1つで操作可能にし、複数のリモコンを使い分ける煩わしさから解放されるなど、高い利便性を実現しています。

また、ユーザがリモコンを使って何をしたかを記憶し、ユーザが何を望んでいるかをリモコン自身が分析します。その結果、ユーザの好みをリモコンが把握し、好みに応じた状態（快適な部屋の温度、明るさなど）を自動的に設定したり、さらにはユーザに提案したりします（図2）。さらに、QRコードの読み取りも可能なため、紙メディアと電子メディアの連携も簡単に実現できます。

ぜひ一度、「NOTE」にて、未来のリモコン等で実現する快適な生活シーンをご覧ください。

未来の電話「t-Room」

2番目は、時空を超えてつながる不思議な映像と音の空間を創出する未来の電話「t-Room（ティールーム）」です。

NTT研究所では、いつでもどこでも声を遠くに送り届けることができるとも便利な“電話”の未来のことを、常に考えています。単に声を届ける電話のその先に何かがあるのか。「t-Room」はその答えの1つです。

t-Roomは、同室感という臨場感に代わる新しい環境を提供するビデオコミュニケーションシステムです。遠隔の人、異なる時刻にいる人、仮想空間の人たちと、実世界の同じ部屋・空間にいるような感覚で情報共有や協同作業が行えます。

どの空間にいる人でも、他の誰がどこを見ているのか、どんな仕草をしているのか、すぐに分かります。物に直接指差しをしながらの会話や、パーソナルス

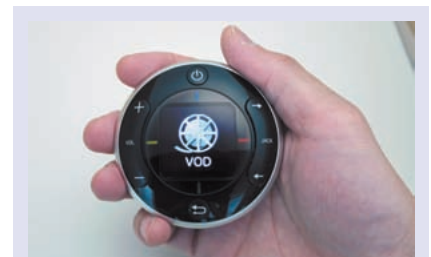
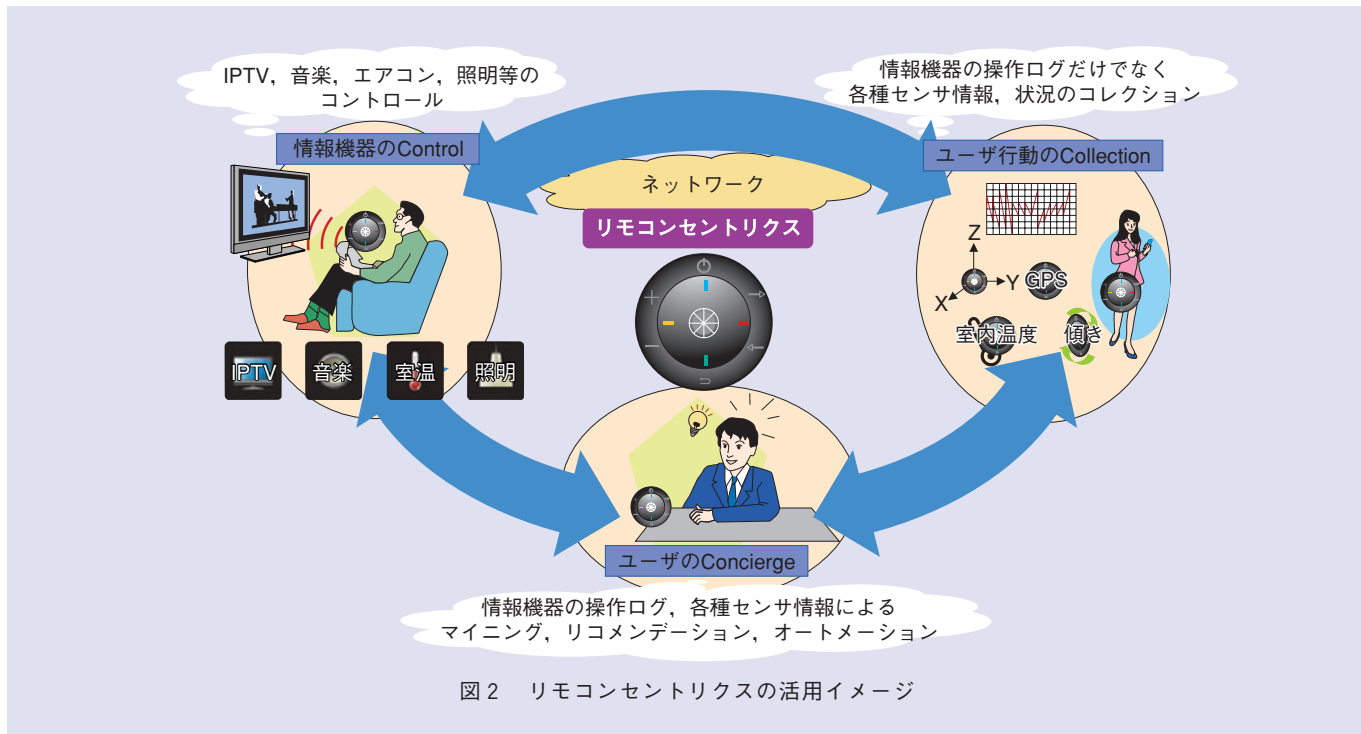


図1 リモコンセントリクス



ペースを意識した人の配置や移動も自由自在です。いずれも、目の前にスクリーンが置かれた従来のテレビ会議ではでき

なかったことです。

皆さんは図3をご覧になったとき、この記念写真に納まった人々の中に、実

はディスプレイ映像が含まれていることに気付かれたでしょうか。あたかも同じ場所に集合して記念撮影しているかのような自然な一体感は、t-Room だからこそ得られたものです。

このように、距離や時差といった制約から解放された世界で、実世界と同じような自然なコミュニケーションが可能になったら、どんな未来が拓けるのでしょうか。タイムマシンのように過去に没入して体験できる「電話」、100万人と会話できる「電話」、Webに置き換わるような「電話」、携帯する必要のないユビキタスな「電話」、いつでも生産者をつながる「電話」、夢がかなう「電話」、未来の電話にも制約はありません。

ショールーム「NOTE」では、そんな未来の電話を考えながらt-Roomを体験していただければと思っています。

◆問い合わせ先
 NTT研究企画部門
 TEL 03-5205-5335